

仕事の合間にひと時の休息を。

憩え～る

働く人の憩いマガジン

「ほつ。」と エピソード

企業の採用と人財育成を支援する
会社「採用と教育」。

その代表である半田真仁が、
日々現場で起こる、“心を動かされる
エピソード”をご紹介していきます。

今回は、ある飲食店が舞台です。

Vol. 1 北風と太陽

いつものようにお客さんで賑わっていた、ある昼下がり。その日もその飲食店にはお客様が絶えず、行列が出来ていました。その中に、7歳くらいの子どもを連れた家族がいました。その子どもは、このお店の塩だれのお肉が大好物で、毎回注文するのです。

その子どもの顔を見たスタッフの小林さん(仮名)は、「しまった」と思いました。あいにくその日は、塩だれを切らしていました。それに加えて、いつも来ている業者さんも来ない日。塩だれが入ってくる予定はありません。今から頼んだとしても、自分で取りにいかなくてはなりません。しかし、その子どもが食べたがっているのを知っていた小林さんは、すぐに塩だれを発注しました。

ところが、それを知った店長が激怒。

「こんな忙しい時に、何で相談もなしに勝手な事をしたんだ！今日はもういいよ！帰って！」

勝手な判断をしたため、叱られた小林さんは、落ち込みました。確かに、今は忙しいし、今回は諦めてもらうしかないのか…

そう思っていたその時。社長から小林さんに、電話がかかってきました。小林さんの話を聞くと、社長は、こう言いました。「お客様の為を思ってしたことなんだろう？だったら、最後までやりな。大丈夫、店長ならきっとわかってくれるよ。」

その言葉に後押しされた小林さんは、店長に訳をちゃんと話し、許可を取ることにしました。

「どうしてもあの子さんに塩だれを食べさせてあげたいんです。折角並んでまで待っていただいたのに、ないと知ったらきっと悲しむと思うんです。」

店長は「そこまで言うなら、わかった」とうなづきました。小林さんは、急いでお店を出て、塩だれを取りにかけました。

小林さんが抜け、さらに忙しさを増した店内。ホールのスタッフもキッチンのスタッフもバタバタしています。でも、文句を言う人間は、誰一人いませんでした。みんな、小林さんがなぜそういう行動に出たか、わかっているからです。

結局、小林さんは、そのお客様に塩だれのお肉を提供することができました。

大好物を食べる子どもの笑顔を見て、小林さんはほつとしました。「本当によかったね！」周りのスタッフも、小林さんと一緒に、喜びました。

実は、このお話、裏エピソードがあります。実は、小林さんを叱った店長は、そのお客様の事も塩だれの事もわかつっていました。でも、立場上、店内を仕切る責任があります。小林さんを叱った後、社長に小林さんにフォローしてほしいと連絡をしたのは、店長でした。

店長は言います。「組織には、人に厳しく当たる北風のような役割と、人を温かく包む、太陽のような役割、どちらも必要なんだ。」と。

半田真仁(はんだしんじ)

「採用と教育」代表

広島県出身。企業での若年者を対象とした研修や、経営者支援活動など、キャリア教育の分野で活躍中。



人には、人それぞれの人生があり、
100人いれば、100通りの歴史や物語があります。
ここでは、そんな数々の人物伝の中から一人ピックアップして、ご紹介します。

「ほつ。」と ストーリー



彼は、30代半ばで始めたガソリンスタンドの経営に失敗。

新しく始めたレストランの経営がやっと軌道にのったころ、一緒に働いていた息子を亡くし、さらにレストランが火事に。

その後、独自のスパイスと調理法でつくる料理を考え出し、経営を立て直すが、お店の近くに建設されたハイウェイで、車の流れが激減。ついに彼はレストランを手放すことになる。彼の手元に残ったのは1台の車だけ。

ただ、そんなどん底の中でも、自分が開発したスパイスと調理法を教える、フランチャイズ・ビジネスの原型となる事業を思いつく。

そのとき、彼の年齢は65歳。

車で生活しながら全米をまわり、売り込みを続ける。

その結果、最初に契約をもらったのは、1010人目だった。

彼のつくったフランチャイズ・ビジネス

「ケンタッキー・フライドチキン」は、

現在、世界80カ国に1万店舗以上展開している。

その人の名は、カーネル・サンダース。

不屈の精神、燃える情熱は大成功を収めた。



column

「ケンタッキー・フライドチキン」の店頭に佇むあの銅像を、見たことがある人は少なくないだろう。そう、今回の主役はこのお店の創始者であり顔である、サンダース氏。

実は彼は、波乱万丈な人生を歩んできた人だった。事業の失敗。息子の死。火事。廃業。車での生活…。これだけ様々な出来事が続くと、絶望し、途中で人生を諦めて投げ出してもおかしくない。でも彼は違った。“フランチャイズ商法”という新たなビジネスモデルを生み出した彼には、不屈の精神があった。例え、1000人に断られ続けても、自分の信念を貫き続けた。

人は誰しも、何度やってもうまくいかず、諦めそうになる時がある。

そんなときに、彼の生き様は、「『もう無理だ…』と言う前に、まずは1000回やってみろ。」そんなメッセージを、私たちに投げかけているような気がするのである。



Profile

カーネル・サンダース Harland David Sanders(1890-1980年)
米インディアナ州ヘンリービルに生まれる。
本名はハーランド・デーヴィッド・サンダース。
(「カーネル」はケンタッキー州に貢献した人に与えられる称号。)

今回の物語

「情熱思考」
中経出版、2010
是久 昌信 著より



こころほっと ニュース。

2010年9月

▼「定年退職の喜び共有したい」男性、 通行人に現金配る 独

ドイツで定年退職した男性が、退職の祝いを分かち合いたいとして通行人に現金を配るという「事件」が発生し、警察が事情聴取するという騒ぎになった。

この男性は「私は失業者でもホームレスでもない。妻もいる。健康だ。だからあなたにユーロ（現金）をあげたい」との説明文を首から下げ、バイエルン州アシャッフェンブルクの通りに立っていた。

これに対し、男性が詐欺行為を働いているのではと不審に思った通行人が、警察に通報。男性は定年退職した幸せを共有したいだけと説明したという。

結局、通行人に自分の金を与えることを禁じる法律は無いため、男性は事情聴取の末、「幸せな退職の共有行為」を続けることを許されたという。

2010.9.10 13:04 (ロイター)より

上海で出発が1時間遅れた飛行機の乗客も、まさにこの心境だったに違いない。

8月30日、上海を出発するKLMオランダ航空機は、離陸許可を待ち続けること1時間が経過。いつ出発できるのか、見通しもわからない状況だった。

すると、「乗客たちの暇つぶしなれば」と立ち上がったのが、飛行機に乗り合わせていたアムステルダム・シンフォニエッタの面々だ。公式サイトによると、アムステルダム・シンフォニエッタのメンバーは北京と上海でのツアーや成功させ、オランダへ戻るために同便に乗っていたという。しかし、待ち時間が長くなるにつれ悪くなる雰囲気を少しでも明るくしようと、それぞれの楽器を取り出して通路へと向かうことに。総勢22人のメンバーは2列の通路に分かれて並ぶと、モーツアルトの楽曲を演奏。メンバーの周囲には遠くの席にいたと思われる乗客たちも集まり、機内はちょっとしたコンサート会場となつた。



▼出発遅れた機内に響き渡るモーツアルト、 突然の生演奏に拍手喝采。

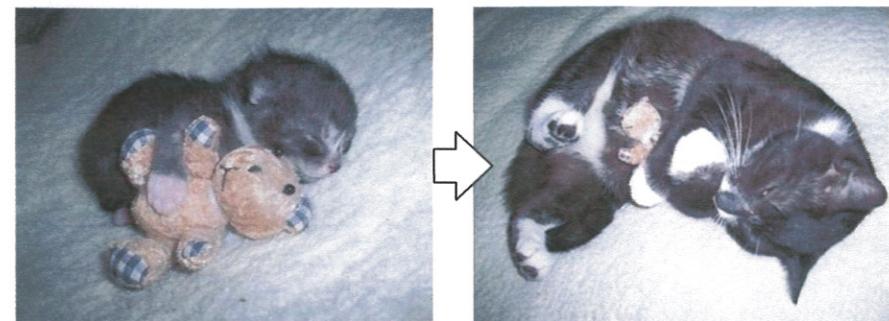
運航が天候などに大きく左右されるため、ほかの交通機関に比べると出発・到着時間が遅れることが多い飛行機。乗客の安全を第一に考えてのことと分かつてはいても、中には「まだか、まだか」とイライラしてしまう人もいるだろう。確かに狭い座席でジッと待ち続けるのはストレスが溜まるものだが、先日、中国・

2010/09/05 (ナリナリドットコム)より



癒しの写真館

▼生まれた時から、ぬいぐるみが大好きなネコ



生誕時

現在

生まれたときからクマのぬいぐるみが大好き。
大きくなった今でも、変わらずぬいぐるみを大事にしている猫なのでした。

(MSN トピックス <http://topics.jp.msn.com/life/column.aspx?articleid=400473> より)



編集後記

①構成・編集担当：いしかわ

②記事・イラスト担当：めぐ

①書いてみてどうだった？

②手探りでした。文章を書くのが難しかったです。

感じるのはあっても、なかなか言葉にするのって難しくて…。

①確かに。あと、ネタを探すのも試行錯誤だったね。

読んでる方に、感動を届けたいというのが今回の趣旨だったけど、感動する事って、普段なかなか意識しないから。でも、探してみると意外と身近にあるもんだねー。

②はい。カーネルサンダース氏から、路上のおじさんまで。(笑)

①ああ！あのおじさん、最高だよね！日本も、そんなおじさんで溢れればいいのに(笑)！

私だったら、喜んで喜び共有するよ(笑)

②本当に(笑) 感動した事を共有するだけでも、違いますよね。場が明るくなります。

①そうだね。まずは、感動をみつけるところから、かもしれないねー。



YELL の使い方①



「YELL (癒え~る)」について

いつもお仕事をがんばっている皆さまのもとへ、小さな微笑みと癒しのひとときを。そんな想いでつくったのが「YELL (癒え~る)」です。

このニュースレターは、これまでにご縁をいただいた皆さまのもとへ、「採用と教育」広報部よりお届けしていく予定です。今号はその記念すべき創刊に先立ち、創刊準備号となります。お忙しい日々の合間に、いつでもお気軽にお手にとっていただけると嬉しいです。

皆さまの職場が、笑顔にあふれますように。

■お問い合わせ

採用と教育 広報部

福島市三河南町1-20 コラッセふくしま6階

インキュベートルーム内

TEL 024-525-4057

E-mail info@saiyoutokyouiku.com